

α 変種について。(うまいから、丁寧な書き方をした。)

例: モデル $M = \{ \text{ハナコ}, \text{ヨシコ}, \text{カナ}, \text{リサ}, \text{タロウ} \}$

5人からなるモデル M を考える。

$u_M(a) = \text{ハナコ}, u_M(b) = \text{ヨシコ}, u_M(c) = \text{カナ}$

$u_M(d) = \text{リサ}, u_M(e) = \text{タロウ}$ とする。

P : 女性である。を表す記号とする。

まず $\alpha = a$ とする。

$a = \text{ハナコ}$ とする $P_a = T$

$a = \text{ヨシコ}$ とする $P_a = T$

$a = \text{カナ}$ とする $P_a = T$

$a = \text{リサ}$ とする $P_a = T$

$a = \text{タロウ}$ とする $P_a = F$

アリの解説でいう。" α に代りあてず

個体のみが、 a と異なる" ようにしていく

(つまりの向も、 $b = \text{ヨシコ}, c = \text{カナ}$.)

($d = \text{リサ}, e = \text{タロウ}$ ありつづけていく $\Leftarrow \alpha$ 以外は a と同じ。)

次に $\alpha = b$ とする。

$b = \text{ハナコ}$ とする $P_b = T$

$b = \text{ヨシコ}$ とする $P_b = T$

$b = \text{カナ}$ とする $P_b = T$

$b = \text{リサ}$ とする $P_b = T$

$b = \text{タロウ}$ とする $P_b = F$

次に $\alpha = c$ とする。

$\alpha = d$

$\alpha = e$

$e = \text{ハナコ}$ とする $P_e = T$

$e = \text{ヨシコ}$ とする $P_e = T$

$e = \text{カナ}$ とする $P_e = T$

$e = \text{リサ}$ とする $P_e = T$

$e = \text{タロウ}$ とする $P_e = F$

ここで、1つ F が" T "と" F "と" T " ($a \wedge b$ " T " がある) ときに限り

$u_M(\forall x P_x) = T$ と同値である。(あいい、今回の例では $(F \wedge T) \wedge (T \wedge T) \wedge (T \wedge T) \wedge (T \wedge T) \wedge (F \wedge T) = F$)

$u_M(a) = \text{ハナコ}$
 の" a " は " a " の
 意味としては、
 記号世界でいう a の
 現実世界では、
 ハナコを表す、
 ということ。
 これは、記号の個体
 領域の意味を
 教えてくれる関数
 である。

← " $a \wedge b$ " の α 変種に
 ついて "...